

福岡の30代4人が活動報告

九産大でフォーラム



「未来を創るU40の実践」。今月14日、こんなテーマを掲げた地域づくりフォーラム(日本地域政策学会九州・沖縄支部主催)が福岡市の九州産業大であった。「U40」とは40歳未満の若者世代。福岡県内で活躍する4人が、実家や里山をシェア(共有)する取り組みや、親子が集える場の創出といった活動例を報告した。会員

最初の登壇者はデザイナーにしたくないと昨年、SNSの谷口竜平さん(37)。出身地で募ってシェアハウスを開いた実家に加え、近くの面積2・4畝の広大な山も自然体験の場としてシェアする「むなかたシェアハウス」を展開中だ。職場と自宅は福岡市にあるが、仏壇がある実家を空き家

活動の中で心掛けているこ

とは「継続的に、人がワクワクを感じ、面白いことをする」。そこに人が自然と集まり、行動が起きてそのエリアの価値が上がるという考えも披露した。今後の目標は田舎でしかない、若者にとって魅力的な仕事をつくることだ。

中村路子さん(35)、おきなまさひとさん(35)は、ともに出身地の久留米市でイベント運営会社の共同代表を務める。

メイクセラピストの資格を持つ中村さんは、2人の子どもを育てるシングルマザー。実家が中華料理店のおきなさんは、小学生のころから調理場で皿洗いをしながら「まちなにぎわいを、皿を通して感じていた」。

そんな2人が痛感したのは、「久留米には親子の居心地の良いスペースがない」。コミュニティ・カフェの運営や百貨店屋上でのイベント開催など子育てグループを巻き込み、「親と子が育ち合う出来事であふれるまち」を進めている。

2人は、子どもが水たまりで遊ぶ写真を掲げた。「大人にはただの水たまりだが、子どもは川や海、風呂場と捉えるかもしれない。まちや地域を何に見立てるか、想像力が大切」と中村さん。行き詰まったとき、立ち戻るのがある写真という。おきなさんは「ま

ちづくりとか社会課題解決が目的ではない。じぶんサイズで食っていく地域のスタイルが今まさに見られている」と強調した。

最後は、福岡地域戦略推進協議会(FDC)フェローの西田明紀さん(37)。福岡市都心の水上公園の整備など、行政と民間をつなぐFDCの取り組みの一例を紹介した。「貨幣経済に換算しやすい価値以外のものが多いローカル(地方)だからこそ、インベーションは辺境から起きる。そこにU40や大学生は気付き始めている」と西田さん。老若男女、産学官や業界を問わず、フラットに話せてネットワークをつくる「越境人材」が地域や組織にいるか、と提起した上で、「福岡の元気な秘密は『イチ市民』として地域を楽しく面白くしようと考えている人たちの熱量の総量」と締めくくった。

企画した九産大経営学部の山下永子准教授(公共政策学)は「働く場やシチュエーションを限定せず、同世代とつながる接続性の高さが共通点。生活のしにくさを実感し、ネットを使って解決する方法を考え出した最初の世代とも言える。実践活動の中から地域政策との接点が生まれ、U40が地域活性化のプレーヤーとして期待される存在になってきている」と話した。

記者(37)は4人と同世代、U40だ。アンテナを高く張り、自分自身がより良く暮らせるために何ができるかを発信し、アクションを起こす。4人の報告からは、周りの共感を呼ぶだけ、運動がより広がっていくという「幸せの好循環」を感じた。地域の未来に向けて一歩、何かを始めるときのヒントとなるはずだ。

聴講の九産大学生が感想

九産大経営学部の学生27人が「(4人は)自分の持つ地域づくりフォーラムを聴講しているものを把握し、地域にあるものでできることを分析し、感想を寄せた。成功につながっている。自分も挑戦したい」と言うのは吉田剛さん(3年)。森康平さん(同)は「いわゆる田舎という敬遠される環境を、逆に魅力に変えてしまう。そんな活動に魅力を感じる」とした。

指導に当たる山下永子准教授は「自治体の半数以上が消滅する可能性がある」とされる2040年、今の20代が社会の中核となっている。日本をV字回復させるために、20代の行動力が求められる」と話した。

「次は自分も挑戦を」「活動に魅力感じる」手柴彩さん(4年)は「地域活性化のやり方はいろいろある。消滅する可能性がある」とされる2040年、今の20代が社会の中核となっている。日本をV字回復させるために、20代の行動力が求められる」と話した。

里山シェア、まちに活力…

「U40」未来を創る



デザイナーの谷口竜平さん



福岡地域戦略推進協議会(FDC)フェローの西田明紀さん



イベント運営会社共同代表のおきなまさひとさん(右)と中村路子さん

若者がいるだけで地域は元気になる



日本地域政策学会会長

大宮登さんに聞く

「若さ」はまちづくりにとって寄与するの？ 大学が地域の未来に果たす役割とは？ 地域づくりフォーラムに参加した日本地域政策学会会長で、高崎経済大(群馬県高崎市)名誉教授の大宮登さんに聞いた。(聞き手・塩田芳久)

高崎経済大は1996年、日本初の地域政策学部を設置した。大宮さんは当初から学生を指導し、学部を挙げた地域づくりにも取り組んできた。

卒業生は自治体職員などとして、次代のまちづくりの担い手となっている。学部の創設当初は、「大学は敷居が高い」「調査

大宮登さんに聞く

「若さ」はまちづくりにとって寄与するの？ 大学が地域の未来に果たす役割とは？ 地域づくりフォーラムに参加した日本地域政策学会会長で、高崎経済大(群馬県高崎市)名誉教授の大宮登さんに聞いた。(聞き手・塩田芳久)

高崎経済大は1996年、日本初の地域政策学部を設置した。大宮さんは当初から学生を指導し、学部を挙げた地域づくりにも取り組んできた。

卒業生は自治体職員などとして、次代のまちづくりの担い手となっている。学部の創設当初は、「大学は敷居が高い」「調査

大宮登さんに聞く

「若さ」はまちづくりにとって寄与するの？ 大学が地域の未来に果たす役割とは？ 地域づくりフォーラムに参加した日本地域政策学会会長で、高崎経済大(群馬県高崎市)名誉教授の大宮登さんに聞いた。(聞き手・塩田芳久)

高崎経済大は1996年、日本初の地域政策学部を設置した。大宮さんは当初から学生を指導し、学部を挙げた地域づくりにも取り組んできた。

卒業生は自治体職員などとして、次代のまちづくりの担い手となっている。学部の創設当初は、「大学は敷居が高い」「調査

大宮登さんに聞く

「若さ」はまちづくりにとって寄与するの？ 大学が地域の未来に果たす役割とは？ 地域づくりフォーラムに参加した日本地域政策学会会長で、高崎経済大(群馬県高崎市)名誉教授の大宮登さんに聞いた。(聞き手・塩田芳久)

高崎経済大は1996年、日本初の地域政策学部を設置した。大宮さんは当初から学生を指導し、学部を挙げた地域づくりにも取り組んできた。

卒業生は自治体職員などとして、次代のまちづくりの担い手となっている。学部の創設当初は、「大学は敷居が高い」「調査

おみや・のぼる 1951年生まれ、山形市出身。高崎経済大地域政策学部では大学と地域連携に関する実践的教育にかかわる。地域活性化学会会長も務める。専門は社会学。

高崎経済大は1996年、日本初の地域政策学部を設置した。大宮さんは当初から学生を指導し、学部を挙げた地域づくりにも取り組んできた。

卒業生は自治体職員などとして、次代のまちづくりの担い手となっている。学部の創設当初は、「大学は敷居が高い」「調査

高崎経済大は1996年、日本初の地域政策学部を設置した。大宮さんは当初から学生を指導し、学部を挙げた地域づくりにも取り組んできた。

卒業生は自治体職員などとして、次代のまちづくりの担い手となっている。学部の創設当初は、「大学は敷居が高い」「調査